

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				9	9	7	
	電気電子創造工学科				16	16	7	
	物資工学科				12	12	7	
	建築学科				14	14	7	
	複合工学専攻 （機械工学コース）			6	8	14	7	
	複合工学専攻 （電気電子創造工学コース）				7	13	7	
	複合工学専攻 （物質工学コース）				4	10	7	
	複合工学専攻 （建築学コース）				6	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=12

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表
<https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスは、前年度に教務委員会を通じて全教員に作成方法等を案内し、作成している。シラバスは国立高専機構の Web シラバスを通して公開され、当該 Web シラバスへのリンクを本校 HP に掲載することで本校として公表している。シラバスの形式は、国立高専機構のフォーマットに準拠したもので、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=12
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各科目の内容により試験やレポート、その他の取組状況等を加味し、適切な手法を用いて評価をしている。 実際の評価方法については、シラバス記載の評価基準を基に実施しており、最終的には本校の学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規則に基づき、学年末の判定会議において単位の修得状況等を確認のうえ、卒業又は修了を認定している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ○客観的な指標の設定 シラバスに基づく成績評価方法に従い、履修科目の成績を100点法により評価し、全科目合計点の平均を算出する。(なお、卒業研究その他合否により評価する科目については、平均の算出から除外する。) ○成績の分布状況の把握 上記の平均点を用いて、各学科・専攻ごとの成績分布を把握しており、平均点の高いものから順位付けをしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.oyama-ct.ac.jp/gakusei/成績評価等について/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 準学士課程及び専攻科共に、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、その方針に基づき卒業認定を行っている。 実際の卒業・修了の認定については、本校の関係規則に従い学年末に判定会議を実施し、その会議において単位の修得状況等を確認のうえ認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	【本科】https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/ 【専攻科】https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/ 学生便覧 (https://www.oyama-ct.ac.jp/gakusei/) 学校要覧 (https://www.oyama-ct.ac.jp/about/publications/)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/information/schoolevaluation_jabee/selfinspection/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/ ） （概要）機械工学科は、機械工学分野に関する基礎知識と技術を教授し、機械の設計・生産・製造・計測・制御などの関連分野で専門知識を活かして活躍できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/ ） （概要） 機械工学科は、小山工業高等専門学校のディプロマ・ポリシーに基づき、次に掲げる能力を身に付け、機械工学科所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。 1. 機械工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 2. 機械工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができる。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができる。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/ ） （概要） 1. 機械工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができるように （１）低・中学年次に自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 （２）低学年次に工学共通の基礎となる科目を設け、実験・実習や演習を主とした学修方法により展開する。 （３）低・中学年次を中心に機械工学分野の専門基礎科目を設け、講義や実習を主とした学修方法により展開する。 （４）全学年を通して、リベラルアーツ科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 2. 機械工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができるよう （１）低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。

(2) 中・高学年次に応用的専門科目を設け、講義や演習・実習を主とした学修方法により展開する。 (3) 高学年次に、課題解決能力を育成するための科目群を編成する。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができるように (1) 低・中学年次に現代社会や倫理などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 全学年を通して、他者と協働するために必要なコミュニケーションスキルを涵養するための科目群を設け、これをグループ学習により展開する。 (3) 高学年次に文学や哲学などの人文・社会系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 高学年次に環境科学やライフサイエンスなどの複合領域科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 専門分野における課題発見・解決力、自発的な学習・研究能力、プレゼンテーション能力を育成するため、4年次にプレラボ、5年次に卒業研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/) (概要) 機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。 1. 数学、理科、技術が好きで、得意な人 2. 自ら考え、手を使って、行動できる人 3. 環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人
---	---

学部等名 電気電子創造工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/) (概要) 電気電子創造工学科は、電気・電子・情報技術分野に関する基礎知識と技術を教授し、異なる科学領域を結びつけ、新たな価値の創出や創造的な解決策を提案できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/) (概要) 電気電子創造工学科は、小山工業高等専門学校のカリキュラム・ポリシーに基づき、次に掲げる能力を身に付け、電気電子創造工学科所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。 1. 電気電子情報工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 2. 電気電子情報工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができる。

3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができる。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/) (概要) 1. 電気電子情報工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができるように (1) 低・中学年次に自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に工学共通の基礎となる科目を設け、実験・実習や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 低・中学年次を中心に電気電子情報工学分野の専門基礎科目を設け、講義や実習を主とした学修方法により展開する。 (4) 全学年を通して、リベラルアーツ科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 2. 電気電子情報工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 中・高学年次に応用的専門科目を設け、講義や演習・実習を主とした学修方法により展開する。 (3) 高学年次に、課題解決能力を育成するための科目群を編成する。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができるように (1) 低・中学年次に現代社会や倫理などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 全学年を通して、他者と協働するために必要なコミュニケーションスキルを涵養するための科目群を設け、これをグループ学習により展開する。 (3) 高学年次に文学や哲学などの人文・社会系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 高学年次に環境科学やライフサイエンスなどの複合領域科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 専門分野における課題発見・解決力、自発的な学習・研究能力、プレゼンテーション能力を育成するため、4年次にプレラボ、5年次に卒業研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/)

（概要）電気電子創造工学科では、電気エネルギー、電気電子回路、情報通信、電子材料、コンピュータやプログラムなどの基礎を学び、それらを活かした新エネルギー技術、最新ロボット技術やシステム作りとその応用を勉強し、社会のために努力しようとする人の入学を期待します。

1. 数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
2. 自分で考え、アイデアにあふれ、モノを作ることが好きな人
3. 最先端技術分野や先進的システムに興味があり、将来ものづくりで社会に貢献しようと思う人

学部等名 物質工学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/>）

（概要）物質工学科は、物質工学分野に関する基礎知識と技術を教授し、新素材・化学製品・生体物質などの関連分野で活躍できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/>）

（概要）物質工学科は、小山工業高等専門学校のディプロマ・ポリシーに基づき、次に掲げる能力を身に付け、物質工学科所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

1. 物質工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤の基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。
2. 物質工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができる。
3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができる。
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/>）

（概要）

1. 物質工学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤の基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができるように
 - （1）低・中学年次に自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - （2）低学年次に工学共通の基礎となる科目を設け、実験・実習や演習を主とした学修方法により展開する。
 - （3）低・中学年次を中心に物質工学分野の専門基礎科目を設け、講義や実習を主とした学修方法により展開する。
 - （4）全学年を通して、リベラルアーツ科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
2. 物質工学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができるように
 - （1）低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。

(2) 中・高学年次に応用的専門科目を設け、講義や演習・実習を主とした学修方法により展開する。 (3) 高学年次に、課題解決能力を育成するための科目群を編成する。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができるように (1) 低・中学年次に現代社会や倫理などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 全学年を通して、他者と協働するために必要なコミュニケーションスキルを涵養するための科目群を設け、これをグループ学習により展開する。 (3) 高学年次に文学や哲学などの人文・社会系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 高学年次に環境科学やライフサイエンスなどの複合領域科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 専門分野における課題発見・解決力、自発的な学習・研究能力、プレゼンテーション能力を育成するため、4年次にプレラボ、5年次に卒業研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/) (概要) 物質工学科では、化学および生物の基礎と、それを応用することを勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。 1. 化学や生物に興味を持つ人 2. 自然現象に興味を持ち、好奇心旺盛で、実験が好きな人 3. 人間生活と自然環境との関わりについて関心のある人
---	---

学部等名 建築学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/)
(概要) 建築学科は、建築分野に関する基礎知識と技術を教授し、それらを用いたプロジェクトの企画能力を有し、建築の諸分野で活躍できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
(公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/)
(概要) 建築学科は、小山工業高等専門学校のカリキュラム・ポリシーに基づき、次に掲げる能力を身に付け、建築学科所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。 1. 建築学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 2. 建築学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができる。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができる。

4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/)
1. (概要) 建築学分野において、実践的技術者に必要な工学、技術およびリベラルアーツに関する基盤的基礎知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができるように (1) 低・中学年次に自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に工学共通の基礎となる科目を設け、実験・実習や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 低・中学年次を中心に建築学分野の専門基礎科目を設け、講義や実習を主とした学修方法により展開する。 (4) 全学年を通して、リベラルアーツ科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 2. 建築学分野において、応用的な事例や課題の解決に基礎知識を用いることができ、専門分野において分析的に考察し取り組むことができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 中・高学年次に応用的専門科目を設け、講義や演習・実習を主とした学修方法により展開する。 (3) 高学年次に、課題解決能力を育成するための科目群を編成する。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることができるように (1) 低・中学年次に現代社会や倫理などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 全学年を通して、他者と協働するために必要なコミュニケーションスキルを涵養するための科目群を設け、これをグループ学習により展開する。 (3) 高学年次に文学や哲学などの人文・社会系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動ができるように (1) 低・中学年次にプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。 (2) 高学年次に環境科学やライフサイエンスなどの複合領域科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 専門分野における課題発見・解決力、自発的な学習・研究能力、プレゼンテーション能力を育成するため、4年次にプレラボ、5年次に卒業研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/)
(概要) 建築学科では、すまい、都市などを計画・設計するための知識と、建物のしくみ、造り方などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。 1. 数学や理科に興味があり、技術や美術が好きな人 2. 人々の生活環境を学び、快適な建物を設計してみたい人 3. 建物のしくみに興味を持ち、安全な建物づくりに取り組みたい人

学部等名 複合工学専攻（機械工学コース）
教育研究上の目的（公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/ ）
（概要）複合工学専攻は、機械系、電気・電子・情報系、化学・生物系、建築系の各分野に関する高等専門学校本科課程で得た基礎知識・技術を応用して、融合・複合化する力を養成し、時代の流れに柔軟に対応できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/ ）
（概要）小山工業高等専門学校は、次に掲げる能力を身に付け、小山工業高等専門学校学則で定める修了認定の要件を満たした学生に対して、専攻科の修了を認める。
1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。 3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/ ）
1. （概要）準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。 2. 応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。 3. 社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。 4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけられるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/ ）
（概要）次の学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。 1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人 2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人 3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人 ●機械工学コース

機械工学に関連する分野の基礎学力を有し、基礎を応用して、より高度な技術を自ら身に付けようとする意欲のある人、専門分野の知識や得られた成果を簡潔に説明・発表できる人。

学部等名 複合工学専攻（電気電子創造工学コース）
教育研究上の目的（公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/ ） （概要）複合工学専攻は、機械系、電気・電子・情報系、化学・生物系、建築系の各分野に関する高等専門学校本科課程で得た基礎知識・技術を応用して、融合・複合化する力を養成し、時代の流れに柔軟に対応できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/ ） （概要）小山工業高等専門学校は、次に掲げる能力を身に付け、小山工業高等専門学校学校則で定める修了認定の要件を満たした学生に対して、専攻科の修了を認める。
5. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 6. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。 7. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。 8. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/ ）
5. （概要）準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。 6. 応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。 7. 社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。 8. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけられるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/ ）

(概要) 次の学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。 1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人 2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人 3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人 ●電気電子創造工学コース 数学・英語の基礎学力と電気電子の専門基礎学力を有し、電気・電子・情報について自ら学び、その分野を積極的に研究できる人。
--

学部等名 複合工学専攻 (物質工学コース)
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/)
(概要) 複合工学専攻は、機械系、電気・電子・情報系、化学・生物系、建築系の各分野に関する高等専門学校本科課程で得た基礎知識・技術を応用して、融合・複合化する力を養成し、時代の流れに柔軟に対応できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/)
(概要) 小山工業高等専門学校は、次に掲げる能力を身に付け、小山工業高等専門学校学則で定める修了認定の要件を満たした学生に対して、専攻科の修了を認める。 9. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 10. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。 11. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。 12. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/)
9. (概要) 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。 10. 応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。 11. 社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。 12. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけら

れるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/) (概要) 次の学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。 1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人 2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人 3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人 ●物質工学コース 材料工学や生物工学等の諸分野に関する化学の基礎学力を有し、より高度な専門知識と問題解決能力の修得と自学自習の意欲があり、協調性を持ってチャレンジできる人。

学部等名 複合工学専攻（建築学コース）
教育研究上の目的（公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/） (概要) 複合工学専攻は、機械系、電気・電子・情報系、化学・生物系、建築系の各分野に関する高等専門学校本科課程で得た基礎知識・技術を応用して、融合・複合化する力を養成し、時代の流れに柔軟に対応できる豊かな人間性と創造性を備えた実践的技術者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/) (概要) 小山工業高等専門学校は、次に掲げる能力を身に付け、小山工業高等専門学校学校則で定める修了認定の要件を満たした学生に対して、専攻科の修了を認める。 13. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。 14. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。 15. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。 16. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/) 13. (概要) 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。 14. 応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。

15. 社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。 16. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけられるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/)
(概要) 次の学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。 1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人 2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人 3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人 ●建築学コース 建築学における、生活に密接に関わる安全・快適な建築物及び居住環境や都市空間について関心があり、これらの分野の基礎学力を有し、自ら学ぶ意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/outline/soshiki/shoshikizu/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
機械工学科	－	3 人	5 人	0 人	1 人	0 人	10 人
電気電子創造工学科	－	9 人	6 人	1 人	1 人	0 人	17 人
物質工学科	－	5 人	5 人	1 人	0 人	0 人	11 人
建築学科	－	4 人	4 人	1 人	2 人	0 人	11 人
一般科	－	7 人	10 人	2 人	4 人	0 人	23 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		19 人					19 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list?page=1&limit=30&districtId=03&affiliationId=6544000000					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者 数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	206 人	103.0%	若干名 人	0 人
電気電子創造工学科	80 人	83 人	103.8%	400 人	402 人	100.5%	若干名 人	0 人
物質工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	208 人	104.0%	若干名 人	0 人
建築学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	200 人	100.0%	若干名 人	0 人
合計	200 人	207 人	103.5%	1000 人	1016 人	101.6%	若干名 人	0 人
複合工学専攻	20 人	21 人	105.0%	40 人	45 人	112.5%	0 人	0 人
合計	20 人	21 人	105.0%	40 人	45 人	112.5%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	39 人 (100%)	12 人 (30.8%)	26 人 (66.7%)	1 人 (2.6%)

電気電子創造 工学科	75 人 (100%)	27 人 (36.0%)	43 人 (57.3%)	5 人 (6.7%)
物質工学科	38 人 (100%)	19 人 (50.0%)	19 人 (50.0%)	0 人 (0.0%)
建築学科	41 人 (100%)	13 人 (31.7%)	28 人 (68.3%)	0 人 (0.0%)
合計	193 人 (100%)	71 人 (36.8%)	116 人 (60.1%)	6 人 (3.1%)
複合工学専攻	34 人 (100%)	20 人 (58.8%)	14 人 (41.2%)	0 人 (0.00%)
合計	34 人 (100%)	5 人 (58.8%)	14 人 (41.2%)	0 人 (0.00%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバスは、前年度に教務委員会を通じて全教員に作成方法等を案内し、作成している。シラバスは国立高専機構の Web シラバスを通して公開され、当該 Web シラバスへのリンクを本校 HP に掲載することで本校として公表している。シラバスの形式は、国立高専機構のフォーマットに準拠したもので、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各科目の内容により試験やレポート、その他の取組状況等を加味し、適切な手法を用いて評価をしている。実際の評価方法については、シラバス記載の評価基準を基に実施しており、最終的には本校の学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規則に基づき、学年末の判定会議において単位の修得状況等を確認のうえ、卒業又は修了を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)

	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子創造工学科	167 単位	有・無	単位
	物質工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	機械工学コース	62 単位	有・無	単位
	電気電子創造工学コース	62 単位	有・無	単位
	物質工学コース	62 単位	有・無	単位
	建築学コース	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

【キャンパスマップ】 https://www.oyama-ct.ac.jp/about/outline/campus_map/

【アクセス】 <https://www.oyama-ct.ac.jp/access/>

【施設・センター】 <https://www.oyama-ct.ac.jp/about/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科 電気電子創造工学科 物質工学科 建築学科	234,600 円	84,400 円	107,200 円～ 115,600 円	その他内訳：学生会費 8,000 円（入会金 1,000 円 含む）、後援会費 40,200 円 （入会金 15,000 円含む。ス ポーツ振興センター共済掛 金含む）、寄宿料 8,400 円 （入寮者のみ対象）。教科 書・教材費約 60,000 円。
	複合工学専攻	234,600 円	84,600 円	45,200 円～ 71,600 円	その他内訳：学生会費 3,000 円（任意加入）、後 援会費 40,200 円（入会金 15,000 円含む。本科からの 進学者は入会金納入不要。 スポーツ振興センター共済 掛金含む）、寄宿料 8,400 円（入寮者のみ対象）。教 科書・教材費約 20,000 円。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 中学校卒業直後の若年層の学生を受入れている特性を踏まえ、修学上の支援に加え、進路選択や心身の健康等安心安全な生活上の支援を充実させている。また、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させ、さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実し、学生一人ひとりの適性と希望にあった指導を行う。 本校独自の「小山工業高等専門学校育英奨学金」、及び授業料免除や就学支援金制度について、学級担任や掲示を通じて学生に知らせ、HP掲載や通知により保護者に対して情報提供して、活用を促している。「小山工業高等専門学校教育研究支援基金」は、短期留学及び語学研修等の支援をしており、「小山工業高等専門学校育英奨学金」は、経済的に困難な学生たちの継続的支援を行っている。 保護者への学生の状況報告は、個人面談、保護者会や電話等を通して頻繁に行っており、状況変化や要望に臨機応変に対応できるように心がけている。また、総合学生支援センター内に学習支援室を設置し、学習面に関する相談や支援を積極的に行い、教員間で情報共有し迅速な対応を心がけている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 総合学生支援センター内にキャリア支援室を設置し、低学年から一貫したキャリア教育を推進している。特に単位化したキャリア教育を推進し、各種セミナー実施やキャリアシート作成等を通し、進路決定に有用な支援を行っている。また、学内組織（地域イノベーションサポートセンターや専攻科等）と協力し、インターンシップや合同企業説明会等を実施し、キャリア教育の充実を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

総合学生支援センター内に学生相談室を設置し、学級担任、保健室、カウンセラー、スクールソーシャルワーカーの連携・協力を得て、問題を抱えた学生の支援を迅速に行っている。また、精神科医（学校医）と連携し、問題学生の対応方法の相談・ケーススタディーを行っている。全学年対象に実施した「高専生活に関するアンケート」調査及び「身体と『ここ』と高専生活の健康調査」、「保護者アンケート」についての情報共有を行うなど定期的に支援活動を展開している。学生相談室等関係部門及び学級担任と連携して、アンケート調査や情報収集を行い、いじめ防止の啓発活動を継続的に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

https://www.oyama-ct.ac.jp/information/publication_of_educational_information/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄(合計欄を含む。)について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード(13桁)	G109110101705
学校名(〇〇大学等)	小山工業高等専門学校
設置者名(学校法人〇〇学園等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等(内数) ※家計急変による者を除く。		102人(67)人	102人(68)人	109人(73)人
内 訳	第Ⅰ区分	22人	23人	
	(うち多子世帯)	(-)	(-)	
	第Ⅱ区分	12人	16人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(-)	
	第Ⅲ区分	10人	-	
	(うち多子世帯)	(-)	(-)	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	-	13人	
	区分外(多子世帯)	48人	46人	
家計急変による支援対象者(年間)				0人(0)人
合計(年間)				109人(73)人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分(理工農)とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令(令和元年政令第49号)第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	-
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))		
	年間	前半期	後半期	
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。